

「子どもへのまなざし運動」

～子どもへのまなざし“100%”のまちを目指して～

子どもの健やかな成長は、すべての大人の願いです。そして、子どもが健やかに成長していく過程では、多くの他者とのかかわり、とりわけ大人とのかかわりが重要です。佐賀市では、すべての大人が、子どもの育成に関心を持ち、かつ、主体的にかかわる社会「子どもへのまなざし“100%”のまち」の実現を目指し、市民総参加で子どもを育む市民運動として「子どもへのまなざし運動」を推進します。

この運動は、「家庭」「地域」「企業等」「学校等」を“子どもを育む4つの場”と位置づけ、「命」「自立」「他者とのかかわり」「子どもを取り巻く環境」という“4つの視点”を意識しながら、大人一人ひとりが“4つの場”における役割を再認識し、社会全体で子どもを育む気運を高めようという運動です。



地域の役割

子どもに地域の一員としての自覚を促す

子どもの安全を見守る

★「地域の子どもは地域で守り育てる」がキーワード。
私たち大人のちょっとした気配りがスタートです。

例えば…

- 身近なところで、子どもの事故や、子どもが巻き込まれる事件が起きていることを認識する。
- 「学校情報携帯メール配信システム」に登録する。
- 登下校時刻に合わせて玄関先の掃除等を行う。
- 買い物や散歩等の外出時間を、登下校時刻に合わせる。
- 外出の際に、子どもにとって危険な場所がないか気を配る。
- 子どもにとって危険な場所を発見した場合は、関係機関（市役所等）に連絡する。
- 子どもが危険な遊びをしていないか気を配る。
- “子ども110番の家”や“子ども見守り隊”等の活動に参加する。
- 不審者や不審車両を見つけたら、関係機関（警察等）に通報する。

「市民性をはぐくむ教育」を実践する

★まずは私たち大人が地域の活動に積極的に参加しましょう。

例えば…

<地域の一員として>

- 地域の各種団体が、地域のために様々な活動を実施していることを認識する。
- 「ちょこっとボランティア」など、“地域のためになること”は自ら進んで行動する。
- 地域活動（河川清掃、お祭り等）に積極的に参加する。

<地域の各種団体として>

- 地域行事を行う際は、できるだけ多くの大人と子どもが企画・準備等に参加できるようにする。
- 地域行事の企画立案の際に、子どもを参画させる。
- 地域行事等の中で子どもにも役割を与え、活躍の場を設ける。
- 準備、本番、後片付けを子どもと一緒にいき、行事終了後はその頑張りをはめる。

子どもと顔見知りになりふれあいを深める

★まずは私たち大人同士が顔見知りになりましょう。

例えば…

- 日頃の近所づきあいを大切にする。
- 子どもと大人がふれあうきっかけとなるような地域の行事が企画・実施されていることを認識する。
- 学校フリー参観デーに出かける。
- 地域の行事等に積極的に参加・協力して、地域の大人や子どもと顔見知りになる。
- 学校ボランティア（本の読み聞かせ、ゲストティーチャー、学習補助等）に登録・参加する。
- 顔見知りになった大人や子どもとあいさつを交わすなど、コミュニケーションをとる。

有害な情報・環境の改善を図る

★子どもの目や耳に入れたくない情報や子どもに悪影響を及ぼすおそれのある環境が身近に存在しています。

例えば…

<地域の一員として>

- 子どもにとって身近な場所に有害な情報・環境があることを認識する。
- 買い物や散歩等で外出する際、有害な情報・環境に注意を払う。
- 有害な情報・環境を発見した場合、関係機関（警察等）に連絡する。

<地域の各種団体として>

- 各種団体が連携しながら、有害な情報・環境の把握に努める。
- 有害な情報・環境を発見した場合、関係機関（警察等）に連絡し、その情報を地域で共有する。

「市民性をはぐくむ教育」

「市民性をはぐくむ教育」とは

子どもを保護の対象としてみるのではなく、市民の一人として捉え、将来の“さが”を担っていく役割や責任を自覚させていくことです。

※「市民性」とは…地域や社会を良くしていこうと主体的に行動する資質や能力、行動力のことです。



具体的には…

「出番」「役割」「承認」の3つがキーワード。

地域の行事等で、子どもに出番や役割を設け、子どもがこれをやり遂げることができるように支援し、子どもの頑張りをしっかり認めることを繰り返すことが大切です。

地域での取組を紹介します

◆諸富町民体育大会にて◆



諸富町民体育大会に、諸富中学校の生徒会役員が参加しました。諸富町体育協会の皆さんと一緒に、朝早くから準備をし、大会全体の運営を手伝いました。

そんな生徒会役員の姿を見て、当日大会に参加した役員以外の生徒たちも大会運営を手伝ってくれました。そして、大人から、「今年は役員が助かった」「盛り上がったよ！ありがとう」といった言葉を受け、生徒達も自信を持ちました。生徒達は、「やりがいがあり楽しかった」「地域の方に喜んでもらって嬉しかった」という感想を持っています。

「出番」「役割」「承認」のサイクルが活きています。

◆北川副夏まつり・冬まつりにて◆



北川副校区では、夏まつりや冬まつりの準備段階から、子どもをスタッフに入れて取り組んでいます。小学生、中学生、高校生がそれぞれ役割を担い、まつりの成功に向けて、大人と一緒に取り組みます。子どもはまつりの準備からかかわることで、自分も地域の一員であるという自覚を持ちます。

このように、子どもが折に触れて地域行事に参画することで、地域の方々と顔見知りになり、日常生活の中での「出番」「役割」「承認」の教育サイクルも自然と増えてきています。

これは、「子どもへのまなざし運動」での地域の取組の核となり、その推進には、

～地域の大人の力が重要です～

Q. 今まで地域では子ども会などの各種団体等による様々な活動がなされていますが、この運動に取り組むにあたっては、また何か新しいことを始めなければいけないのでしょうか？

A. この運動では、そのような既存の活動に、“子どもを育む4つの視点”（表面参照）を取り入れたり、地域の中での連携や協働を充実させたりすることで、その活動の成果の向上につながるものと考えます。ですから、何か新しく取り組みを始めなければいけないということではありません。



問い合わせ先：子どもへのまなざし運動推進室

電話／40-7354 FAX／40-7394